

コード	40302
作成年度	22年度

基本事業評価表

基本事業名称	特産品の開発
--------	--------

総合計画の位置付け	
政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保
施策名称	商工業の振興

課コード	117	関係課名	産業再生推進本部、まちづくり推進課、水産課、農林課
主管課名	観光物産課		

基本事業の目的

農・漁業関係団体との連携を強化しながら、研究開発体制を整備するとともに、物産展・商談会などへの積極的な参加、インターネット利用による地場産品の情報提供、ネット販売など販路開拓を行ない、全国に通用する特産品づくりを進めることを目的とする。

基本事業の成果

成果指標名称 1	観光消費額(単位:千円)	成果指標名称 2	観光消費額(土産代) (単位:千円)
成果指標の積算根拠	実績/目標値	成果指標の積算根拠	土産代実績/土産代目標値
目標達成年度	平成26年度	目標達成年度	平成22年度
目標達成数値	4,082,000千円	目標達成数値	643,555千円

年 度		H18	H19	H20	H21	H22	
成果指標1	目標 A	千円	4,400,000.0	4,500,000.0	4,600,000.0	4,700,000.0	4,082,000.0
	実績 B	千円	3,457,835.0	3,439,410.0	3,262,632.0	3,261,930.0	
	達成率 B/A	%	78.6	76.4	70.9	69.4	
成果指標2	目標 A	千円	549,604.0	609,523.0	607,357.0	599,210.0	643,555.0
	実績 B	千円	580,498.0	578,436.0	570,676.0	612,910.0	—
	達成率 B/A	%	105.6	94.9	94.0	102.3	—

1次評価	現状	五島うどん、水産加工品、椿油、海水塩などに代表される本町の特産品は、「地域の食」に関心が高まるなか、消費者への訴求力を有する産物であり、年々知名度も上昇しているように感じられる。しかしながら、他地域の特産品との明確な差別化が図られていないため、ブランド力に乏しく、まだまだ販売力が足りないのが現状である。
	課題	魅力的な特産品の開発や販路開拓は、島内経済を活性化させる起爆剤となり得るので、既存商品のブランド力を高めるとともに、消費者のニーズに合わせた商品開発及び商品規格の改善を行い、消費者の動向を捉えた商品開発、PRを実施していく必要がある。
	改善	農林・水産・商工・観光物産の横断的な連携により、農商工連携支援制度などを活用しながら、全国に通用する特産品開発や販路拡大を図る。物産展・商談会等への積極的な参加により対外的な知名度の向上と販路拡大を図るとともに、併せて学校給食をはじめ島内飲食店・宿泊施設などにおける地場産品の使用を促進し、地産地消による島内消費の拡大に努める。
2次評価	五島うどんや水産加工品、椿製品、塩等の特産品においては、知名度が低いという情報力不足もさることながら商品としての製品化、価値化、流通の課題などがある。観光物産課をはじめ、関係する各課の連携を要するものであり、情報を共有する体制を整備し事業展開を図っていくこと。	
住民等の意見		
町の対応		

※2次評価の公表後に住民等の意見があった場合には、再度公表するものである。